



ヨゼフ アベイヤコ 教区認可 発行所 福岡教区本部 福岡市中央区浄水通6-28 発行人 カトリック福岡教区 編集人 下町豊重 TEL 092-522-4059 FAX 092-523-2152 振替口座 01760-6-20729 カトリック福岡教区 定価 一部70円

12月の意向 教皇様の意向のために祈りましょう 【福音宣教】 カテキスタ 【日本の教会】 クリスマスの喜びと祝福

「愛のよろこび」家庭年 つながり合う新たな方法を

教皇フランシスコの使徒的勸告『愛のよろこび』発表5周年を記念する『愛のよろこび』家庭年が今年3月19日の聖ヨセフの祭日から始まっており、2022年6月26日にローマで開催される「第10回世界家庭大会」(テーマ「家庭の愛・召命と聖性への道」)をもって閉じられる。 教皇は「家族の愛に包まれて人々が成長するための特別な年です。家庭に教会と社会の注目を集めるために、創意にあふれる新たな司牧活動を行なってください」と語る。 この家庭年を生きるための導きを教区司祭の森山信三神父に聞く。



ここ数年、教皇様は「〇〇年、〇〇の日」と毎年のように新たに打ち出され、「カトリック教会では今年は何の年ですか」と問われたら、即答できる方は少ないかもしれせん。かくいう私もこの原稿を依頼されて、「そうだった、家庭年だった」といった次第です。何かお伝えする資格はないかも知れません。しかし、皆様と一つでも分かち合うことができたらと思ひ、お引き受けすることにしました。 さて、教皇フランシスコは、昨年12月8日、使徒的書簡『父

の心で』を発表され、この日から今年の12月8日までを「ヨセフ年」とすると宣言されました。さらに2021年3月19日、2022年6月26日を「愛のよろこび」家庭年」とすると発表され、「この年は、家族の愛に包まれて人々が成長するための特別な年です。：それぞれの家庭が、自分たちの家にナザレの聖家族が生きて息づいていると実感できるように祈ります。聖家族がわたしたちの小さな家庭共同体を、誠実で大きな愛で満たしてくださいませよう」(2021年3月14日お告げの祈り)と述べておられます。



この家庭年は使徒的勸告『愛のよろこび』発布(2016年)5周年を迎えて定められました。2つの特別な年を並行させたのは、コロナ禍にあって、改めて家庭の大切さを見直してほしいという教皇の意向によるものだと思います。ヨセフ年も終わりに近づき、この特別な年をまずヨセフに焦点を当てて考え

てみましょう。 イエスは父なる神のいつくしみをヨセフの中に見て育ちました。イエスはヨセフとマリアの姿の中に神がどなたであるか、その無限の憐みといつくしみを聖家族を通して学びました。そして「人生には意味を理解できない出来事が数多く起こります。私たちの最初の反応は、失望や反発です。ヨセフはどれほど不可解なことでもあっても受け入れ、その責任を引き受けました」(『父の心で』4)。このヨセフの姿勢、生き方は後に人々の罪を担い十字架に上っていくイエスと重なるように思います。さらに教皇は続け「人は初めから父なのでなく、父になるのです。そして子どもが生まれたから父になるのではなく、誰かの人生に対する責任を引き受けることはつねに、その人に対し父として振舞うことになるのです」(同)。 家庭を持たずに献身する司祭や修道者に限らず、「家庭」というものが血縁に限らない

という視点も重要だと思えます。今日、いかに多くの人々がホームレスや孤立する高齢者に寄り添い、時として家族以上に振舞っているでしょうか。「私の母、私の兄弟とは神の言葉を聞いて行方不明の人」と(ルカ8章21節)と言われている通りです。 さて、勸告『愛のよろこび』の基調となっているのは、やはり教皇が一貫して述べておられる「いつくしみ」です。「教会のいのちを支える柱はいつくしみです。教会の司牧行為は全てが優しさに包まれていなければなりません」(『愛のよろこび』310)。

特に、危機の中にある夫婦や家庭、例えば離婚再婚者に対して、ヨセフのように「受け入れ」(寄り添うこと)、個々の家庭の多種多様な事情や複雑な状況に応じた司牧的な対応を求めているとされます。「彼らが自分自身は破門されたのだと感じないようにすべきで、教会はいつも自分を迎えてくれ、愛情をもって受け止めてくれる母のように」すべきです。裁かず、断罪せず、排除せず、「洗礼を受けた者として私たちの兄弟姉妹です」(同299)と言われます。 この1年、コロナ禍により家族がともに集い、交わるのが非常に難しくなりました。それは神の家族、教会も同様です。当たり前の前だったことが出来なくなりました。私たちはこれまでのあり方を捉え直し、人と人、神と人とがつながり合う新たな方法を模索していく時だと思えます。 森山信三神父 (カトリック中央協議会事務局長/福岡教区司祭)

益々高まっていると指摘されます。でもこの数年メンバーの高齢化が進み、研修会も開けていないのが現状です。 歴史をたどると、カテキスタの確かな全国組織が存続しています。日本カテキスタ会(通称NCK)は1969年、神言会のゲマインダ神父の尽力によって在俗修道会として設立され、誓願を立てたカテキスタたちが海外からの宣教師のもとに派遣され、宣教師を支えました。当時福岡教区も交えて12の教区が設立に参加しています。 時は移り、NCKは現在一般カテキスタの会員によって構成され、全国のカテキスタの連合会になっています。現在もローマ教皇庁と日本カトリック司教団の認可(顧問・高見三明大司教)を受けた公認の団体として、孤独になりがちなカテキスタの連帯を強めるとともに、霊的・知的な養成、そして新たなカテキスタの育成を行うことを目的とした会です。 NCKから福岡教区の会、つまりFCKの参加を期待する声が届いています。 福岡教区のカテキスタの皆さん、そして社会のパン種として生きようとする皆さん、現在休会中の福岡カテキスタ会・FCKの再設立を祈りながら、お会いできる日を待ちましよう。

長濱 聰(八代教会) 2歳4ヶ月になった女の子が、生まれる前からのことを両親に話す場面がテレビで放映された。その子が言うには「私はお母さんのところに来る前に神様のところにいたの。たぐさんの神様がいてね。滑り台からお姉ちゃんと降りる仕方を教わっていたの。お姉ちゃんが先に滑ったけど、途中で止っちゃったの。そして神様が上まであげてくれたの。その後私が滑ってきてお母さんのところに来たの。お父さんの名前もお母さんの名前も知っていたよ。私ね、お父さんとお母さんを選んで来たの。お姉ちゃんはおもうすぐやって来るよ」とのこと。両親はびっくりして、色々質問をした。その子の話しは的を射ており、後日起こることが証明されていた。母は、その子の話をSNSで投稿したり、本を書いたりした。読者の中には流産して苦しんだり、赤ちゃんを亡くして悲しんだりした人も多くいたが、その子の話で慰められたりして、安心感に変わったと言った。そしていつか神様の国で会えることに希望を持ったという。幼稚園のある保護者も同じ経験を話している。「あの子が話すことが出来る前からそれとなく教えてくれていました。2歳になった今でも未来の妹のことを私のお腹を触りながら話すんですよ」と言う。▼神の国があることを幼い子たちは証言する。靈感による聖書も神の国を見事に描いている。その神の国から来られた神の独り子は人間を憐れみ、救い、神の国に入れるためにマリヤの胎を借りて人としてこの世に生を受けられた。「天には神に栄光、地には善意の人に平和!」(S)

10月26日(火)午後、大名町教会にて教区司祭評議会が行われた。コロナ禍の中で、殆どの評議員が参集し、密な討議を交わした。初めにシノドスの祈りを唱えた後、アベイヤコ教より日頃の奉仕へのねぎらいと集まりへの感謝の挨拶があり、レナト神父(玉名・荒尾教会主任)の司会によって話し合いに入った。 【議題1】教区内全司祭集会(10月12日)の振り返り 【議題2】宣教師牧方針案について(2議案合わせの感想) 【司祭集会が久しぶりに行われ、各神父の元気な顔を見ることができた】「グループに分かれて日頃の宣教師牧を



【議題3】教区委員会、教区宣教師評議会設置について 司教より、教区の委員会の整理、また、教区の宣教師評議会を立ち上げるについて意見が求められ、「教区宣教師評議会と同時に各地区の宣教師評議会を立ち上げるのが必定的だが、立ち上げるのが難しい」と「教区宣教師評議会と既存の教区信徒使徒職協議会の関わりをどうするか、話し合いを続ける必要がある」などの意見が出た。 【議題4】司祭給与に関して 各地区の司祭集会で既に話し合われた司祭給与の見直しとその財源について報告があった。検討されている司祭の給与については、給与額や配分方法について道筋は見えてきているが、財源の課題が残る。財源は主に信徒が納入する教

会維持費であるが、世帯数が減っていく中、信徒の負担も考えなければならぬ。維持費納入に関して正しく理解されるよう努める一方、司祭による寄付も含め教区全体で担う課題だと分かち合われた。報告を受け、司教は全ての信徒にも説明を行いながら、現在の不均衡な状況を改善できるように、少しずつ全体の合意を得られる案を作っていくと述べた。 【議題5】福岡コレジオの移動について(2面参照) 大神学校への移動の話が上がっており、司教団と神学校側とで交渉が続いている。 【議題6】2022年度年間スケジュールについて 事務局長・青木悟神父より来年度の計画案が発表された。 【議題7】コロナ後の教会について 特に直近のクリスマスミサについて、司教より「各教会の状況に応じ、信者の参加数を増やしたり、聖歌を歌うことも勧められる。主の降誕を皆でお祝い出来たら」と話があった。 最後は司教からの祝福で解散となった。

カテキスタとは本来福音・教会の教えを伝える人を指しますが、現代の教会では意味を広げて、教会の外・社会に身を置き、自分の役割を果たしながらキリスト者として、パン種として生きようとする人々も含めて考えられています。 福岡教区では歴代の司教によって養成された数十人のカテキスタが、様々な状況の中で静かに活動中です。司祭不足が続く中、カテキスタの重要性は

【議題3】教区委員会、教区宣教師評議会設置について 司教より、教区の委員会の整理、また、教区の宣教師評議会を立ち上げるについて意見が求められ、「教区宣教師評議会と同時に各地区の宣教師評議会を立ち上げるのが必定的だが、立ち上げるのが難しい」と「教区宣教師評議会と既存の教区信徒使徒職協議会の関わりをどうするか、話し合いを続ける必要がある」などの意見が出た。 【議題4】司祭給与に関して 各地区の司祭集会で既に話し合われた司祭給与の見直しとその財源について報告があった。検討されている司祭の給与については、給与額や配分方法について道筋は見えてきているが、財源の課題が残る。財源は主に信徒が納入する教

【議題3】教区委員会、教区宣教師評議会設置について 司教より、教区の委員会の整理、また、教区の宣教師評議会を立ち上げるについて意見が求められ、「教区宣教師評議会と同時に各地区の宣教師評議会を立ち上げるのが必定的だが、立ち上げるのが難しい」と「教区宣教師評議会と既存の教区信徒使徒職協議会の関わりをどうするか、話し合いを続ける必要がある」などの意見が出た。 【議題4】司祭給与に関して 各地区の司祭集会で既に話し合われた司祭給与の見直しとその財源について報告があった。検討されている司祭の給与については、給与額や配分方法について道筋は見えてきているが、財源の課題が残る。財源は主に信徒が納入する教

みちくさ

教区養成教化委員会主催 信徒養成プログラム —新しいスタイルで— 熊本での3年の歩み

教区養成教化委員会が企画した新しいスタイルの信徒養成プログラムが、2019年～2021年の3年をかけて実施され、11月7日(日)、アベイヤ司教のミサの派遣によって全9回のプログラムが終了した。社会人の信徒養成プログラムを教区内の各地区に「出前」する趣旨で計画され、カテドラルから地理的に一番遠い熊本地区から取り組みが始まった。熊本地区(天草・県南地方を除く)の各小教区から2～4人が派遣され、計18人が集った。2019年に手取教会を会場とし始まったプログラムは、2020年にコロナで中断したが、2021年には島崎教会に会場を移し続けた。

—プログラムについて—

「成熟した人間になり、キリストの満ち溢れる豊かさになるまで成長する」(エフェソ4章13節)の聖句に導かれ、「社会の中で暮らす信者としての能力・可能性を活かし、それぞれ置かれた場所で宣教司教に貢献し、実践できる」ようプログラムの内容・実施方法が考えられた。養成する側が参加者に同伴するあり方や、参加者の気づきを促し、自ら考え、行動する機会を創出するワークショップ形式を用いるなどの工夫がなされた。司祭1人(「大人の信仰教育」についてローマで学んだレナト・フィリッピニ神父(聖ザベリオ宣教会/玉名・荒尾教会主任))と信徒1人(信徒養成、霊的同伴について養成を受けた荒川千衣子氏(元教区職員))がチームを組むことにより、「教育的でなく学習者主体的な、観念的でなく実践的な」信徒養成の実施が可能となった。3年目にはさらに信徒1人(菊川真理子氏(大牟田教会))がチームに加わった。

3つのテーマ「社会人である信仰者」「聖書とみことば」「典礼と体験・宣教と証し」で各テーマ3回のプログラムが準備され、計9回の内容となった。1回のプログラムは主日の午前10時から午後6時までの一日がかり。参加者の負担もあったが、回を重ねるごとに参加者の間に「信仰共同体、派遣されるキリストの弟子たちの分かち合い」の実感が深まった。

—参加者の声—

◇講座の初め、私自身が「宣教者である」ということを全く意識していなかった。また、「私ごとができるものではない」と他人のようだった。しかし、チームの人々と話し合ったり意見を聞いたりする中で「宣教者である」ということを意識し始めた。それは回を重ねる毎に強くなっていった。…「私自身の姿を通して人々の信仰を取り戻す」これが私の宣教かもしれない。

◇以前は月曜日から土曜日までの日常生活を日曜日のミサでリセットするというような繰り返しだったが、養成を受けて神様からの働きかけを日常生活の中でも感じるようになった。…また、自分の行いによって神様から認められるのではなく、全てが信仰のみによってゆるされ、神様が私の全人格を包んでくださる感覚を感じるようになった。

◇講話と合わせプログラムの中で行われた体を動かすゲームや瞑想の時間を通して、頭・体・心をよく使い、また、よく休めることができた。その中で自分の思い込みや決めつけ、ありのままの自分に気付くというめぐみを得た。

◇プログラムが始まる前からワクワクしていたし、期間中も楽しい時間が続いた。乾いたスポンジのように全て吸収したかった。このプログラムで成長を実感しているし、この年になっても成長できると嬉しくなりました。



養成プログラムに集う参加者たち
(会場：島崎教会)

10月31日(日)、アベイヤ司教が、直方教会、田川教会を訪問した。アベイヤ司教の訪問は昨年から予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、三度に渡って延期となっていた。直方教会では9時からミサが開始され、たくさんの信徒が司教の説教に聞き入り、ともに祈りを捧げた。



大きな喜びに包まれて

アベイヤ司教 教区内司牧訪問

コロナ禍に振り回されながらも司牧訪問も残すところあと3小教区。今回は、三度に渡って延期された田川・直方教会から、大きな喜びに包まれたためぐみの日の報告が届いた。

ミサが終わると、休憩をさみ、アベイヤ司教から教区のこれからについて話を聞いた。現在作成が進んでいる「宣教科方針」について説明があり、教区みんなで考え作っていく方針であることが分かった。その後の質疑応答では、司教の故郷の話やローマで働いた経験も聞くことができ、アベイヤ司教との交流を深めることができた。

その後、田川教会に移動し、午後1時からミサが行われた。田川教会では、毎週主日のミサをYouTubeでライブ配信しており、この日もミサに集まった信徒だけでなく、ネット中継により各地の人々とも心を合わせて、祈ることができた。ミサには、日本人だけでなく、ベトナム人、フィリピン人の信徒も参加しており、生まれや国籍は違っても、信仰で一つに結ばれている教会の神秘を、あらためて体感することができた。

ミサでは一人の小学生が初聖体を受けた。司教から初めての聖体を受け、緊張した表情で拝領していた。ミサ後は

「福岡コレジオ」移転決定

「福岡コレジオ」(カトリック長崎教会管区司祭志願院)というのは、司祭の召し出しを感じている青年が、大神学校に入学する前の期間を過ごす共同体だ。現在、指導司祭とともに青年4人が共同生活をしている。

数十年來の生活環境の大きな変化に伴い、教会も強く影響を受け、その一つが司祭召命の激減として現われている。残念ながら、現在、長崎教会管区下の司祭志願者は大神学校で養成を受けている神学生6人とコレジオ生4人の計10人である。

このような状況の中で、長崎教会管区司教団は、来年度(2022年度)から福岡コレジオを福岡カトリック神学院に移転し、同じ場所での力をしながら養成を行なった方がいいと判断した。

大神学院とコレジオのそれぞれの特徴とプログラムを尊重しながら、同じ司祭職への道を歩む青年たちは、お互いに励まし合って、より豊かな養成を受けることが期待される。

また、移転することによって、多少とも教区の経済的な負担が軽減されると見込まれる。

司祭職への召し出しが増えるように、皆が心を一つにして祈り、そのための活動もより積極的に行う必要がある。

でも、信仰で一つに結ばれている教会の神秘を、あらためて体感することができた。ミサでは一人の小学生が初聖体を受けた。司教から初めての聖体を受け、緊張した表情で拝領していた。ミサ後は

記念品の贈呈も行われた。当初の予定より一年近く遅くなってしまったが、ようやく司教を迎えることができ、両教会とも大きな喜びに包まれた一日となった。

(報告：大塚了平神父)



教区民を代表して参加された方々と記念の集合写真

福岡カトリック神学院祭2021 —今年もリモート開催で—

院の神学生および養成者、福岡コレジオ生、長崎カトリック神学院の神学生と共にインターネットを通じて全国から大勢の方々が参加した。

ミサ後にYouTubeで放送された当日の企画の一つであった「バラエティー」では、大神学生全員が参加し、神学生になって良かったこと驚いたことなどについてコミカルに紹介し、神学院でご覧になられた来場者からは時おり笑顔がこぼれていた。

コレジオ生が出演した神学院制作ドラマ「夜に駆ける福音」では、ヨセフとマリアという架空の人物が登場し、共に生きていくことの難しさや大事さについて描いた。最後には神学生全員が「あなたの道を」という新しい歌を歌ってエンディングを飾った。

尚、当日の様子は現在もインターネット「神学院祭特設サイト」またはYouTube「神学院祭」で視聴出来る。

(報告：福岡カトリック神学院祭・実行委員長 洪燦基)

11月3日(水・祝)「ヨセフの心で」私はここに「ヨセフの心で」というテーマで、「神学院祭2021」がオンラインで開催された。

午前9時30分から神学院聖堂で行われたミサには、ヨセフ・高見三司教様を始め、ヨセフ・アベイヤ司教様、司牧実習先の5小教区の代表者約60人、福岡カトリック神学院の神学生および養成者、福岡コレジオ生、長崎カトリック神学院の神学生と共にインターネットを通じて全国から大勢の方々が参加した。

ミサ後にYouTubeで放送された当日の企画の一つであった「バラエティー」では、大神学生全員が参加し、神学生になって良かったこと驚いたことなどについてコミカルに紹介し、神学院でご覧になられた来場者からは時おり笑顔がこぼれていた。

コレジオ生が出演した神学院制作ドラマ「夜に駆ける福音」では、ヨセフとマリアという架空の人物が登場し、共に生きていくことの難しさや大事さについて描いた。最後には神学生全員が「あなたの道を」という新しい歌を歌ってエンディングを飾った。

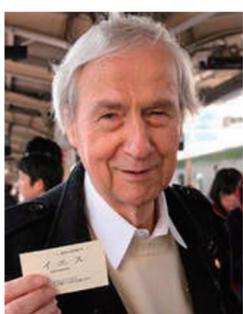
尚、当日の様子は現在もインターネット「神学院祭特設サイト」またはYouTube「神学院祭」で視聴出来る。

(報告：福岡カトリック神学院祭・実行委員長 洪燦基)

訃報

キツペス・ワイデマール 神父

(レオパートル修道会)



2021年10月31日、老衰のため帰天。享年91。初誓願は1950年で、1955年に司祭叙階。修道生活71年。司祭生活66年であった。

1995年11月に来日以降、谷山・薩摩河内・加世田・徳之島・谷山(以上鹿児島教区)で司牧し、1971年に

キツペス神父様との思い出

渡米。シカゴ大学で文学博士号取得後は、1976年から上智大学、鹿児島大学、南山大学、アントニオ神学院、ラサール高校、聖マリア短期大学等で教鞭を執り、1998年から2020年9月までは、久留米の「臨床パストラルケア教育研修センター」で理事長として、スピリチュアルケアの普及と人材養成に貢献した。

43年前、私は修道会の本部で、シスターの方の研修会の世話をしていました。年末の研修会の講師として来られた神父様に、お食事を準備していた時のことです。「これはおいしいですよ。これもおいしいですよ。」と申し上げると、「うるさい！自分で選べます。」と一喝。「うわーっ」と思った体験を忘れません。

その後、イエズスの聖心病院にホスピスが開設され、日本でのパストラルケア(スピリチュアルケア)の先駆的働きをしておられた神父様は、聖心病院を研修病院として、毎年5日間、認定研修を開催されました。毎度私は、その世話人として、研修に参加出来る恩典に与ることになり、多くの志を同じくする仲間とも出会うことになりました。

その間には、1996年の「独・英へのパストラル研修旅行」に参加し、最後は2018年のドイツ・ボランティア研修旅行に、2週間参加出来るまでしたことは忘れ得ません。

長年の関わりの中で、最後に「シスターの顔は、心をありのままに表現する。直ぐに解ります」と言われたことは、どんな意味であれ、私にとっては、大きな贈り物、神父様の直球でした。

シヨファイユの幼きイエズス修道会 内坪井修道院
Sr.泉 キリ江

カトリック古賀教会 納骨堂のご案内

カトリック古賀教会内に3年前に建設された、比較的新しい納骨堂です。年に1度、主任司教による慰霊祭も執り行われております。取得費用は、下記の通りとなります。1区画 ¥300,000(別途、管理料等がかかります) 詳しい資料、見学等のお問い合わせは、下記までお願いいたします。

カトリック古賀教会
住所：福岡県古賀市花見東2丁目23-1
電話：092-942-2171



人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリーロード
薬院・油山・野芥・小田部・今宿馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店 福岡メモリーロード
0120-45-1616

草苑 (SOUEEN)

カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016 福岡市中央区平和3丁目1-5

人生の多感な時を過ごす中学・高校時代。学業と信仰教育の結びつきについて、その様子や課題などを現場から月替わりでご寄稿いただく「ミッションスクールの今」。第6回目は福岡県大牟田市にある明光学園中学・高等学校に話を伺った。

明光学園中学・高等学校 (福岡県大牟田市)



- 6 -

戦後間もない昭和27年、有明の地に設立された明光学園は、来年創立70周年を迎えます。三池炭鉱の石炭産業を中心に発展しつつあった大牟田市に、当時の福岡教区深堀仙右衛門司教様の招聘により、イタリアに本部を置くカノッサ修道女会が来日したことからその歴史が始まりました。シスター方は戦後の混乱の中で真に価値あるものを示し、光を与える存在として学園創立に熱情と無私の奉仕を捧げられたと聞いています。

この愛と奉仕の精神は今も教育活動の中で大切に受け継がれています。創立当初からの宗教行事のほか、沈黙の中で自己の生き方に気づく時間「静修」(立腰・静座黙想)を月に1回程度設けており、授業開始時も「静修」を行い、心を落ち着け本来の自分に立ち返る訓練をしています。入学時は神様のことを知らない生徒達も、毎日アヴェマリアの祈りを唱え、宗教の授業や海外支援ボランティア活動等を通してミッションスクールの生徒らしく成長し、卒業していきます。私たち教職員は、職員朝礼での聖書朗読やマダレナ・カノッサの教育についての定期的な研修を大切にしており、聖マリア学院大学の系属校としての合同研修等を通して、より一層、広く社会貢献に寄与できる人材を育成するよう努めています。

明光の宗教教育は「カノッサセンター」を中心に、教職員のみならず、修道会、在世会、信徒や卒業生によって支えられています。信徒の力をお借りした宗教揭示物、昼休みのシスター方の校内散策、修道院聖堂での祈りとシスターへのインタビューの時間などの機会を作っています。このような雰囲気から、今も聖堂で静かに祈る生徒の姿が見られます。教育現場でもICT化が進み、デジタルネイティブ世代の時代だからこそ、愛を中心とした人間らしい繋がりが必要で、ミッションスクールの存在はますます重要なのではないかと考えます。生徒一人ひとりが神様の愛に気付いて自分のミッションを自覚し、実現できるよう、学園のDNAを受け継いでいきたいと思っています。

地域とともに「クリスマスの集い」を



もうすぐクリスマス。明光では「クリスマスの集い」に保護者や地域の方々を招き、一緒にミサに与り喜びを分かち合います。生徒たちは地域の方々を本日のクリスマスの意味を知り、考えるきっかけとなるように張り切って準備をします。残念ながら今年も非公開放となりますが、生徒たちと共に福岡教区の皆さんのためにお祈りいたします。よいクリスマスをお迎えください。宗教科 吉松貴子

「キーワードは「また行きたい!」」
第3回 miniFYCC 大楠教会で開催



やっぱり対面が1番!

毎年行われる福岡地区青年会主催の中学生を対象とする「ミニFYCC」が計画された。

しかし、初回は緊急事態宣言中の為延期。2回目はオンラインで行われ、今回ようやく対面での開催が実現した。参加の中学生からは、「私は正直友達ができるかとても不安でしたが、実際行ってみるとみんなフレンドリーで恥

ずかしさがいつのまにかなくなっていました!次も行きたいです!」(清菜那)、「私は、初対面の人や人前では緊張するので最初は不安でした。でも色んな子と仲良くなれ、ゲームや話をしてとても楽しかったです。また行きたい!」(ジュリアナ・リンガド)、「私は今回初めてで心配でした。でも皆さんとても親切で、多くのレクリエーションを楽しむことが出来ました。なぞなぞでは、仲間や神父様と解いていくことができたので面白かったです。機会があればまた行きたいです!」(松藤ユリカ)、「今年の夏はFYCCがなくて、ほかの教会の人に会えないなと思っていたのでminiFYCCがあるの聞いてとても嬉しかったです。初めて会う人とも班での活動などで仲良くなるのが出来たし、久しぶりに会えた



今はのどかな景色の中で、400年前の殉教を偲ぶ

不動山殉教地に集いて祈る

人もいて嬉しく、少しの時間でしたがとても充実したとき

を過ごせました! (石原瑞樹)と喜びの声が聞かれた。

11月7日(日)、佐賀県嬉野市の不動山キリシタン殉教地にて、佐賀地区宣教司牧評議会による殉教者への追悼祈念が行われた。コロナ禍のため、例年のような祈念祭の開催は昨年続き断念したが、午後3時に評議会会長の下町豊重神父(佐賀教会)と佐賀地区内各小教区から修道者・信徒16人が、殉教地の一つである「野添」

この日は天候も良く、かつてキリシタンも見たと思われる同じ山や谷の景色を眺めながら、400年前の殉教者思いを馳せ、来年こそはコロナ禍が収束して祈念祭ミサが開催できるようにと願った。(報告)伊万里教会・吉浦健次

出向いて行く教会 〜いのちのおにぎりリレー〜

「この頃、活動はどんなね」。大名町教会の信徒会長・浜崎さんからの問いがきっかけで、コロナ禍で増加したホームレスの人や、困窮者へ届けるおにぎり作りが困難になつてお話を話したところ、早速、教会の宣教司牧評議会を取り上げられ、杉原神父様の勧めを受け、4月の福岡地区の司祭集会に於いて、「NPO法人ホームレス支援福岡おにぎり会」から第3金曜日の炊き出しのために200個の「おにぎりパック」(おにぎり1個分)作りを願う趣意書が提出されました。

5月から10月まで、大名町、笹丘、吉塚、高宮、西新、光丘の各教会の皆さんによって、緊急事態宣言中でも、熱



感染予防のため、手袋で握らざるパック

お弁当作りの参加者の笑顔は、「福音を宣教する共同体はうれしさに満ちている」(教皇使徒的勧告「福音の喜び」第1章I、出向いて行く教会)と思っています。(報告)大名町教会・原山映子

第2回 アベイヤ司教と青年の集い



司教も神父も青年も「輪」になりつながって行われた集い

10月17日(日)、2度目となる「アベイヤ司教と青年の集い」が大名町教会で行われた。前回(昨年12月)開催時よりも参加対象の年齢層が広がったため、前回参加できなかった青年たちも幅広く参加することができた。コロナ禍になってからは直接顔を合わせる機会が無くなったため、メンバーと久々に再会できて

年、コレジオ生や青少年活動に携わる神父達にも参加してもらった。司教から提示された「分かち合いたいこと、期待すること、自分に何ができるか」をテーマに相互の活動や普段の様子、問題点や意見などを聞くことのできる大変良い機会となった。その中でも多く出てきた言葉が「仲間」であった。青年同士の間が非常に大きく、FYCC(中学生向けキャン

ベツレヘムの光あふれる馬小屋で泣き出してしまった赤ちゃんのイエスさま。それを見ていた小さな羊飼いは考えました。「ぼくはブレゼントはもっていないけど、ぼくができることは……」。やさしい気持ちで、みんなに笑顔を送ります。ドン・ボスコ社発行 税込価格990円



えささちか(絵と文)

もうすぐクリスマス。明光では「クリスマスの集い」に保護者や地域の方々を招き、一緒にミサに与り喜びを分かち合います。生徒たちは地域の方々を本日のクリスマスの意味を知り、考えるきっかけとなるように張り切って準備をします。残念ながら今年も非公開放となりますが、生徒たちと共に福岡教区の皆さんのためにお祈りいたします。よいクリスマスをお迎えください。宗教科 吉松貴子

今年度の集いでは福岡地区、熊本地区、ベトナム出身の青年

☆クリスマスフェア セン ト・ポール FUKUOKA 期間: 2021年11月18日(木)〜12月26日(日) 場所: セント・ポール FUKUOKA ※店舗詳細は下記広告欄でご確認ください。クリスマスカードやクリスマス用品、絵本他を取り揃えています。特価品もあります。

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表: エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山 新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信用品・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM10時30分~PM3時
日曜/AM11時~PM2時(定休日水曜・祝日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL: http://www.pauline.or.jp

年間目標 ともに歩み 支えあっていく共同体

2021年度福岡教区修道女連盟オンライン講演会

毎年開催される「福岡教区修道女連盟」の講演会が、今年度はコロナ禍の為に、オンライン方式で行われました。この模様を「ぜひ福岡教区の皆様とも分かち合いたいと思います」との御好意により下記よりご視聴いただけます。



令和3年度 聖マリア学院大学 公開講座 よりよく生きる

日時・演題(講演内容)
○12月11日(土) 13:30-14:30
コロナ禍をよりよく生きる—こどもの健康—



御受難修道会・宗像修道院 電話ならびにFAX停止のお知らせ

昨年末の福岡黙想の家の営業終了に続き、宗像修道院も2021年11月30日をもって、電話とファックスの回線が停止されることになりました。

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com



福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

カフエ(日時) 12月25日(土) 14時~16時30分(場所) サンパウロ福岡宣教センター3階

熊本地区召命を共に祈る会(日時) 12月20日(月) 10時30分(場所) 手取教会(内容) ロザリオ・召命祈願ミサと話し合い(問合せ先) 09096922758

編集後記

TVアニメ「サザエさん」で、サザエさんの妹のワカちゃんや雑誌作りに挑戦していたのですが、なんと編集後記は雑誌の半分を占める事になりました。苦労話や書いてくれた人へのお礼とかで、その気持ちよくわかりました。私もその位欲しい!(W)

案内板 会合と催し

12月のこよみ

主の降誕 夜半のミサ YouTubeでライブ配信

日時: 12月24日(金) 20時から
司式: ヨゼフ・アベイヤ司教(福岡教区・教区長)
(5分前から配信開始)

視聴方法
* 教区ホームページ(右記QRコード)
http://fukuoka.catholic.jp 参照
* YouTubeより「カトリック福岡司教区・主の降誕夜半ミサ」を検索。



真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 祈りの実り イエス様と共に、イエス様のように生きること
日時: 12月9日(木) 10時~15時
内容: 「行って...場所を用意したら、戻ってきて、あなたがたを私のもとに迎える」(ヨハネ14:3)

コロナ感染症対策のため、各教会の対応が異なります。詳細は各教会にお問合せください。

ご降誕祭・元旦などのミサ時間

Table with columns for church names, regions (福岡, 佐賀, 熊本, 北九州), and specific dates (24th, 25th, 31st, 1st) for Christmas Eve, Christmas, and New Year's Mass times.



社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール: hanahanahimawari2020@gmail.com (24時間いつでも受付)
☎: 080-4735-6971 (9:00-21:00)

福岡教区セクハラ対応窓口
セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話 080-2694-4182
受付時間 月~金(祝日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!
http://www.paulus.jp
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために...
サンパウロ福岡宣教センター
10:00~18:00(月~土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分*駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930